

令和 4年 3月10日

保護者の皆様

青森県立青森聳学校
校長 中谷 えり子

令和3年度 学校評価結果の概要のお知らせ

早春の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動に深い御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、昨年12月に実施いたしました「学校評価の結果の概要」が下記のようにまとまりましたので、お知らせいたします。

学校評価の流れにつきましては、これまでと同様に、児童生徒、保護者に対するアンケート（学校・寄宿舎）を行い、その結果を踏まえ、教職員の自己評価を実施しています。また、2月に学校評議員会において行われました学校関係者評価の結果も同時にお知らせいたします。

記

1 学校評価の結果概要

(1) 児童生徒アンケート

① 評価項目 13項目（学校及び学校生活について、授業について、先生について、学習態度・習慣について）

② 評価 「はい」または「いいえ」等の2者択一（10項目）、記述（3項目）

③ 回収率 100%（幼児を除き18名）

④ 結果

	評価項目	回答
1	学校が好き	はい：18名 いいえ：0名 はいの理由（ワード）：友達、勉強、先生、分かる
2	分かりやすい授業	国語5名、社会4名、算数・数学3名、英語3名、図工2名、 体育1名、なし1名
3	分かりにくい授業	理科・生物4名、算数・数学2名、国語1名、社会・世界史2 名、自立活動1名、なし7名
4	気持ちを話す先生がいる	いる：15名、いない：3名
5	授業の時間は守られている	はい：16名、いいえ：2名
6	学校でいじめを受けている と感ずることがある	ない：18名
7	学校の様子を家で話す	はい：15名、いいえ：3名
8	あいさつをすすんで行う	はい：18名、いいえ：0名
9	交通ルールや学校の決まり を守っている	はい：17名、いいえ：1名
10	先生がくる前に授業の準備をして いる	はい：15名、いいえ：3名
11	授業に一生懸命参加している	はい：18名、いいえ：0名
12	宿題をきちんと行っている	はい：17名、いいえ：1名
13	予習、復習をしている	はい：12名、いいえ：6名
	意見・要望	冬の全校朝会で寒すぎるのでコートを着たい。 寄宿舎で集中するためipadから音楽を聴きたい。 部活の時間を長くしてほしい。もっと大会に参加したい。

⑤総括及び改善策

「学校が好き」「授業に一生懸命参加している」と答えた児童生徒が100%でした。学校が好きな理由に友達との人間関係や勉強の分かりやすさが大きく影響しています。「自分の気持ちを話す先生」がいない児童生徒が若干います。子供たちが、楽しく充実した学校生活を過ごすためには、友達や先生とのよりよい人間関係づくりと分かる授業づくりが必須条件です。定期的な面談等を通して安心して話せるような機会を持つとともに、信頼関係の構築に努めます。

また、「挨拶を進んで行っている」児童生徒が100%であったことは、児童生徒会の挨拶運動と青鞥良くし隊の取組が影響していると思われます。

家庭においては、学校のことを話さないと答える児童生徒は20%で、減少が見られた昨年度(38%)からさらに改善しました。今後も学習や生活全般において保護者と連携を深めながら、指導を行っていく必要があります。

(2)保護者アンケート

【学 校】

- ① 評価項目 19項目(学習指導、生活指導、進路指導、PTA活動、安全・健康管理、環境・美化学校徴収金の管理等に関する項目)
- ② 評 価 4点満点
(4: そのとおりである 3: おおむねそのとおりである 2: やや違う 1: 違う)
- ③ 回収率 100%(22名)
- ④ 結 果
ア 各項目の平均値の最高 3.8 (R2年度: 3.8)
イ 各項目の平均値の最低 3.4 (R2年度: 3.2)
ウ 全項目の平均値 3.6 (R2年度: 3.6)

⑤意見・要望

- ・健康について保護者と向き合っていること
- ・幼稚部での付き添いについて
- ・PTA活動について
- ・人工内耳、補聴器に関する専門性について

⑥総括及び改善策

全項目を平均すると3.6であり、「おおむねそのとおり」以上でした。

本校の学校経営の重点として取り組んだ「授業の充実」に関わる「9 わかる授業」に関しては、昨年度向上したまま維持しており、「10 交流及び共同学習」に関しては、コロナ禍の中、交流を控えていた時期が長かったものの、落ち着いてきた10月以降、積極的に交流に取り組んでいること、居住地校交流ではないがオンラインによる交流に取り組んだことが影響していると考えられます。「12 いじめ防止」に関わる項目は評価が向上しています。面談や相談カードの実施、日常的な見守り等を丁寧に行ってきた成果だと考えられます。

また、「5 学校での様子を分かりやすく伝えている」、「15 健康に関する家庭連絡」、「19 学校徴収金や収支決算の説明」の項目の評価が向上しています。

一方で「PTA活動に関する項目」が昨年度に引き続き、やや低い結果となりました。自由記述でも、保護者のPTA活動への参加が少ないことについて記載がありました。お知らせを早めに配付したり、学級担任から呼びかけたりします。

「11 補聴器の使用や管理」に関する項目は、昨年度と比較すると向上しているものの、自由記述において人工内耳について知識理解を深めてほしい、イヤーマールドの管理に気遣って欲しいとの要望があり、専門的知識と補聴器や人工内耳の使用や管理に関する職員の研修に一層取り組んで行く必要があります。

【寄 宿 舎】

- ① 評価項目 15項目(生活指導、安全・健康管理、環境・施設設備、帰省帰舎・緊急時の対応、徴収金の管理等に関する項目)
- ② 評 価 4点満点
(4: そのとおりである 3: おおむねそのとおりである 2: やや違う 1: 違う)
- ③ 回収率 100%(12名)
- ④ 結 果
ア 各項目の平均値の最高 3.9 (R2年度: 3.7)
イ 各項目の平均値の最低 3.5 (R2年度: 3.4)
ウ 全項目の平均値 3.7 (R2年度: 3.6)

⑤意見・要望

・特になし

⑥総括及び改善策

全項目を平均すると3.7であり、「おおむねそのとおり」以上でした。徴収金や収支決算の説明に関する項目が特に向上しています。今後も、舎生に寄り添いながら適切な環境のもと生活指導の充実に努めていきます。

(3) 自己評価

【学 校】

①評価項目 30項目（指導力向上について、支援計画や指導計画について、キャリア教育について、センター的機能について、学校運営について）

②評 価 4点満点
(4: そのとおりである 3: おおむねそのとおりである 2: やや違う 1: 違う)

③回収率 100% (26名)

④結 果 ア 各項目の平均値の最高 3.8 (R2年度: 3.8)
イ 各項目の平均値の最低 3.1 (R2年度: 3.1)
ウ 全項目の平均値 3.4 (R2年度: 3.4)

⑤意見・要望

・指導力の向上について
・キャリア教育について
・学校課題の職員間での共通理解について
・学校運営について

⑥総括

全評価項目において、平均が3（おおむねそのとおり）以上であり、全体の平均値は昨年度から変化は見られませんでした。

指導力の向上に関わる「子ども一人一人の実態とニーズに対応した言語発達の向上」「実態や特性に配慮した授業の工夫」「基礎的・基本的な学習内容の定着・向上」の項目、キャリア教育に関わる「一貫した進路指導」「情報提供やアドバイス」の項目が0.2ポイント下降しています。

子ども一人一人の実態を考えた指導にあたる必要があります。また、学校課題の職員間での共通理解については昨年度に続いて下降しており、改善が求められます。

センター的機能に関わる「教育相談」及び「公開講座等聴覚障害への理解・啓発」の項目で昨年度から向上しています。

【寄 宿 舎】

①評価項目 29項目（指導力向上について、支援計画や指導計画について、キャリア教育について、センター的機能について、学校運営について）

②評 価 4点満点
(4: そのとおりである 3: おおむねそのとおりである 2: やや違う 1: 違う)

③回収率 100% (9名)

④結 果 ア 各項目の平均値の最高 3.8 (R2年度: 3.7)
イ 各項目の平均値の最低 3.0 (R2年度: 3.0)
ウ 全項目の平均値 3.5 (R2年度: 3.5)

⑤意見・要望

・特になし

⑥総括

寄宿舎職員の自己評価では、全評価項目において平均が3（おおむねそのとおり）以上であり、全体の平均値は上昇の傾向にありました。

「障害特性や実態に応じた指導計画の作成・評価」「教育活動や分掌の記録の整理及び評価・改善・充実」「いじめ防止」に関する項目が、0.3ポイント上昇していますが、「報告・連絡・相談」が0.2ポイント、また、「社会的自立に向けた支援」が0.4ポイント下降しており、検討・改善が求められます。

【学校】【寄宿舎】の総括及び改善策

学校については維持の傾向、寄宿舎については上昇の傾向にあります。

自己評価で3.7以上の高評価だった項目は「早期教育相談及び多様な教育相談の実施」、「学校徴収金の適正な管理」でした。今後も、センター的機能の充実を図り、聴覚障害教育の理解、啓発を図るためにも積極的に情報を発信していくとともに、学校徴収金の適正な管理に努めます。

学校では、「実態とニーズに対応した言語発達の向上」「実態や特性に配慮した授業の工夫」「基礎的・基本的な学習内容の定着・向上」、「一貫した進路指導」「情報提供やアドバイス」に関して低い傾向があります。

「子ども一人一人の実態とニーズに対応した言語発達の向上」については、アセスメントをしっかりと行って子どもの実態を把握し、教員間で共通理解を図った指導に努めます。また、「実態や特性に配慮した授業の工夫」については、生徒の実態や特性を職員間で共有し、体験的な学習を取り入れたり、実態に応じた教材を活用したりして、授業の工夫をしていきます。

「基礎的・基本的な学習内容の定着・向上」については、幼児期から保護者と連携して家庭学習の基盤を作る取り組みを推奨します。また、発達段階に合わせて、朝自習や宿題、小テスト等で学習定着度を確認し、自ら学習に取り組もうとする意欲を育て基礎的な学力の向上を図っていきます。

キャリア教育に関わる項目については、キャリアパスポートを活用して一貫した進路指導に努めるとともに、進路だより・ホームページ等を活用して進路に関わる情報提供をしていきます。

寄宿舎においては全体的に上昇の傾向にありますが、「社会的自立に向けた支援」が0.4ポイント下降しています。朝の会や掲示等様々な場面を通し、一人一人の実態に合わせ、社会のルールやマナーを含め、社会的自立のために必要な力を身に付けることができるよう支援していきます。

昨年度に続いて低い傾向のある「学校課題の職員間での共通理解」については、学部会等の話し合いの機会に定期的に確認して共通理解を図るようにしていきます。

2 学校関係者評価（令和4年2月3日実施）

(1) 授業の充実について

自分の経験上、社会に出てから言語だけでは相手に話が通じないことがあり、手話が役立った。学校でも手話を多く取り入れ、家庭においても手話が大事であることを理解させてほしい。

(2) 指導力・専門性の発揮について

職員の手話に関する研修の回数や時間を増やすとよいと思う。

(3) 安全・安心な教育的環境づくりについて

新型コロナウイルスの感染状況について、今はいつ、どこで、どういう形で感染するかわからない状況である。基本の対策をきちんとすることが大切である。聾学校は感染症対策が万全だと思う。

(4) 地域の要請に応え貢献する学校について

本校から小学校等に進んだ子どもの発音指導等の支援が必要であれば継続した支援をしてほしい。また、今後もこれまで同様地域の要請に応じた支援を継続してほしい。

※児童生徒、保護者アンケート、寄宿舎に対する保護者アンケート、学校自己評価、寄宿舎自己評価の集計結果をホームページに掲載しますので、御覧ください。